

# 「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

山形県 東置賜郡高島町立時沢小学校

## ○学校の概要（平成15年4月現在）

高島町立時沢小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1 (複式)		1 (複式)		1 (複式)		0	3	6
児童数	3	5	1	6	6	8	0	29	

### 1 本年度当初抱えていた「総合的な学習の時間」の課題

本校では、地域の環境を生かし、単元の開発や学習活動の工夫を行ってきた。特に、子どもの思いと教師の願いを融合させて課題を設定し、課題に応じて弾力的に単元構成を工夫したりしてきている。反面「総合的な学習の時間」の活動内容が、学級により様々な状況を呈し、学校として子どもにどんな力を育てたいかが明確ではなかった。

研究指定を受け、今までの「総合的な学習の時間」の活動内容を整理し、子どもの育てたい力を明確にし、さらに高島町で取り組もうとしている「環境」領域を含めながら、全体計画の見直しを進めるといふ課題に迫られた。

### 2 モデル地域としての研究主題をどのように受けとめ、目標設定したか。

(1) 「校区連携」については、昨年まで授業研究会の交流、児童生徒の情報交換、教員同士の親睦、校区PTAとして挨拶推進運動・子どもの健全育成等について話し合いを進めてきた。「校区連携」は9年間を見通した子どもを育てる指針となるととらえ、次の2点を目標とした。

○ 二中校区として育てたい力を明らかにする。

○ 校区の中の先進校(屋代小学校)に学ぶ。

(2) 「外部講師活用」については、昨年まで取り組んできた太鼓や稲つくりの講師を引き続きお願いするとともに、人材活用を進めながら学びの動機付け・追究を図る。

### 3 平成15年度の取り組み内容、成果と課題

#### (1) 取り組み内容

○全体計画の吟味      ○授業改善

#### (2) 成果

○全体計画の見直し

学校全体及び学年ごとの育てる力を明確にすることができた。

○子どもの思いや願いを大切にしたい単元の開発

共通の体験活動を仕組み、そこから出た思いや願いをもとに単元を構成することにより、意欲的に学習することができた。

○自己決定の場と関わり合いの場の設定の工夫

身近な関わり合いの場からスタートし、子どもたちの必要感の高まりに応じて関わり合いの対象を広げていくようにした。このことが、自分の思いを持って関わり合いを深めていくことにつながった。

○多様な学習形態に対応する支援の工夫

複式学級という特性を生かし、異学年の教え合い、グループ、個人などの学習形態を弾力的に取り入れながら支援を行った。そのことにより、子どもの活動に深まりと広まりが見えるようになった。

#### (3) 課題

○全体計画と各単元との密接な関連性を持たせる。

○子どもたちの主体的な学習を進める評価のあり方を一層吟味する。

#### 4 平成16年度の取り組みの見直し

##### (1) 校区連携

- 二中校区として育てたい力を明らかにする。
- 校区の中の先進校(屋代小学校)に学ぶ。
- 授業公開及び授業研究会を実施する。



- 9年間を見通したカリキュラムづくりを行う。
- 児童生徒理解に基づく継続的な指導支援につなげる。
- 連絡協議会の設置を行い、機能させる。

##### (2) 全体計画を見直す視点

- 「総合的な学習の時間」の活動内容を整理する。
- 本校の育てたい子どもの力を明確にする。
- 高畠町で取り組もうとしている「環境」領域を含める。

校区としての視点を決め、各校で1回ずつ授業研究をする。

〈二つの視点とは〉

○学びの発見

自ら課題を見つけ、筋道を立て、自分の力で解決できる子ども

○学びの自覚

学びの価値を感じたり、自分の成長に気づいたりできる子ども

# 総合的な学習の時間の全体計画

高島町立時沢小学校

**学校教育目標**  
 心豊かで創造性のある子どもの育成  
 深く考える子ども  
 心の美しい子ども  
 健康でたくましい子ども

**総合的な学習の時間で育てたい力**

- ・興味を持ったり、問題に気づく力
- ・課題を自分で考えて設定し、最後まで追求する力
- ・身のまわりの情報を収集し活用する力
- ・必要なことを聞いたり思いを他に対して伝えたりする力
- ・自分で考え、決めたことを行動にうつす力

**高島町環境学習**

- ・体験を通して町の自然や生活環境に目を向け、課題意識を持たせる。
- ・環境にやさしいライフスタイルを実践する態度を養う。

## 総合的な学習の時間の目標

中 学 年	高 学 年
(1) 身の回りや校区の人・自然・社会などに興味を持ち、自分自身の生活にかかわることに気づき、調べてみようとする意欲を持つことができる。 (問題発見力)	(1) 身の回りや地域の人・自然・社会などに興味を持ち、自分自身の生活に深く関わっていることに気づき、進んで調べようとするができる。 (問題発見力)
(2) ゴールを考えて課題を選んだり、自分のやりそうな方法を選択したりして、自分なりのこだわりを持ち、課題に向かって没頭することができる。 (課題設定・追求力)	(2) 課題解決の見通しを持ち、自分の課題を見付け出し、適切な方法を選択し、自分なりの課題意識を持ち、最後まで追求することができる。 (課題設定・追求力)
(3) 学校図書館やコンピュータを活用したり、身のまわりの人から聞き取りしたりして情報を収集し、内容を適切に選択し、分かりやすくまとめ、情報を活用することができる。 (情報収集・活用力)	(3) 町の公共施設やコンピュータ・デジカメ等を活用したり、環境アドバイザーや地域の方から必要な情報を得たりして情報を収集し、解決の見通しを持ち、解決したい内容を適切に選び、論理的にまとめ、情報を活用することができる。 (情報収集・活用力)
(4) 気持ちの良い挨拶等に心がけ、共感したり、自分の意見と比べたりしながら相手の話を聞き、他の人に分かりやすい手段で伝えることができる。 (コミュニケーション力)	(4) 時と場をわきまえて礼儀正しく真心を持って接し、要点をまとめて質問したり、対象者を意識して論理的に分かりやすく伝えることができる。 (コミュニケーション力)
(5) 学んだことの中から自分ができることをお家の方と一緒に取り組むことができる。 (実践力)	(5) 学んだことを自分の生活の中に生かし、実践することができる。 (実践力)

**小中(高)連携の具体的視点**

- ・ 二中校区として育てたい力を明らかにする。
- ・ 校区の中の先進校(屋代小学校)に学ぶ。
- ・ 授業公開及び授業研究会の実施
- ・ 9年間を見通したカリキュラムづくり
- ・ 児童生徒理解に基づく継続的な指導・支援
- ・ 連絡協議会の設置

## 「総合的な学習の時間」における環境領域の内容

	中 学 年	高 学 年
環 境	身の回りの環境について興味を持ち、自分自身の生活との関わりに気づき、自分なりのこだわりを持って取り組む力を育てるとともに、自分でできる方法で実践する力を育てる。	地区の環境について興味を持ち、自分自身の生活との関わりに気づき、課題に対して主体的に取り組む力を育てるとともに、学んだことを自分の生活に生かす力を育てる。